

てるひめ
豪華絢爛な時代絵巻「照姫まつり」が開催
～室町時代から伝わる伝説のヒロインに13万人が酔いしれる～

と き 5月29日(日) 午前10時～午後3時30分

と ころ 都立石神井公園(練馬区石神井台1丁目)とその周辺

29日、都立石神井公園とその周辺で「第29回照姫まつり」が開催された。会場は家族連れなど約13万人の人出でにぎわった。

「照姫まつり」は、室町時代中期に石神井城を居城としていた豊島泰経(としま やすつね)の娘・照姫にちなんだまつりで、練馬の春の祭典として定着している。

最大の見どころである「照姫行列」では、豪華絢爛な衣装を身にまとった照姫、泰経公、奥方の三役を中心に、勇ましい鎧姿の武士に扮した総勢約100人が、都立石神井公園内の野外ステージを出発し、公園周辺の約2kmをおよそ2時間かけて練り歩いた。

また、区の友好都市である長野県上田市も照姫まつりに参加。真田の赤備えの甲冑隊は、照姫行列で鮮やかな彩りを加え、信州上田真田陣太鼓保存会は、駅前会場で迫力ある太鼓の演奏を披露し、まつりを盛り上げた。

照姫役を務めた平田 ころろさん(高校1年生)は「多くの方から声援や拍手をいただき、地元を愛する皆さんの思いを感じることができました。練習は大変でしたが、照姫に挑戦して本当に良かったです。」と話していた。



多くの観客を魅了した出陣式



照姫行列の様子(照姫)

【照姫まつりとは】

照姫まつりは、室町時代中期に石神井城を本拠地とした豊島泰経の娘として語り継がれている照姫にちなんだまつりで、毎年、春に開催されている。照姫は、石神井城が太田道灌(おおた どうかん)により落城した際、泰経の後を追って自らも三法寺池に身を投げ、命を絶ったと言われている。【主催：照姫まつり推進協議会(照姫まつり実行委員会、練馬区観光協会、練馬区)】

【出陣式と照姫行列に、観衆から盛んな拍手と声援が】

正午ごろ、照姫、泰経、奥方の三役をはじめ、武者や稚児童姫等が石神井公園内の野外ステージに登場。豊島氏の繁栄から滅亡の様子を描いた『出陣式』が披露されると会場は大きな拍手で包まれた。

照姫行列は、三宝寺池に眠るとされる龍神を先頭に、応募区民等による総勢約100人で構成されており、長さ約100メートルの大行列。沿道には大勢の観客が待ち構え、照姫たちが近づくと大きな歓声や拍手を送り、三役は手を振りながら、にこやかな笑顔で応えていた。また、途中、武者たちが威勢の良い掛け声をあげるなどの演出もあり、大いに盛り上がった。

【長野県上田市も参加】

区の友好都市で、大河ドラマ「真田丸」の舞台である長野県上田市が参加。真田の甲冑隊が照姫行列に参加したり、信州上田真田陣太鼓保存会が石神井公園駅前会場で太鼓の演奏を披露したりと、友好を深めつつ、照姫まつりを盛り上げた。